

がれきの再利用  
品質面など課題

産学連携組織  
仙台で全体会議

東日本大震災で発生した  
がれきの有効利用を目指す  
産学連携組織「がれき  
処理コンソーシアム」  
(代表・久田真東北大大  
学院教授)の全体会議が  
13日、仙台市であり、が  
れきを復興資材に再利用  
する新技術の課題を話し  
合った。

東北大、宮城大に加え、  
建設、セメント、鉄鋼各  
業界の担当者ら約100  
人が出席した。コンクリ  
ートがれきや焼却灰の再  
利用を調査、研究してい  
る各部署が取り組み状況  
を報告した。

鉄鋼の製造過程で出る  
スラグと堆積土砂を混合  
した盛り土や、焼却灰を  
原料にしたコンクリート  
用骨材の新技術に関し  
て、復興資材に活用する  
際の品質や安全基準、ア  
スベストなど有害物の除  
去が課題に挙がった。

国土交通省、県、仙台  
市の担当職員との意見交  
換で、コンソーシアム側  
からは2013年度末  
までとするがれき処理  
期限を踏まえ、「復興事  
業のピークは13年度以  
降も続く。処理期限以降  
もがれきを活用するこ  
とは可能か」などの質問  
が出た。県側は「活用は  
難しい」との認識を示し  
た。